



こじか荘かわら版



「掛け声が心に響く酒造り
言葉は出ずとも目で語りかけ！」

長い人生を歩んで来られた。杜氏だった若かりしあの時を思い出します。
「おまー」と言いつつ喜んでもらえる酒を造っていたあの頃。本当の酒ではないけれど、みんなを酒を仕込んだこの日。様子をじっくりと見ながら何を思われたか。今度はみんなで一升瓶を片手に盃でも交わしますか〜！



こじか荘では、ご利用者のそれまでの道のりをご利用者と共感し、家族とのより良い関係を作るように心掛けています。上の写真は、昔、酒造りをやっておられた。だったら寝ておられる傍らで、酒造りをしたら喜んでないかね？」
「元氣を出してもらえんかね？」の思いから、ご家族の協力を得て、酒造りを再現してみました。利用者の表情が和らいで、じっくり見ておられる姿にご家族も職員もうれしくなりました。子どもが誕生すれば親が生について学び、親の最期を迎えれば子どもが死について学び！
私たちは、ご利用者が生きてこられた証をご家族と一緒に迎えられる事の大切さを胸に、「これからも私たちにしか出来ない「寄り添う介護」を実践していきたいと思っています。」

「傍にいた白蘭酒造株式会社は心より感謝申し上げます」

園芸活動



クラブ活動(書道)



避難訓練



チャレンジデー



クラブ活動(脳トレ)



通所

日常のひとコマ



特養

仲良しの2ショット



外出(備北丘陵公園)



職員演芸



買い物外出(サングリーン)



梅ジュース作り



これが、こじか荘の食を支える厨房だ〜!

新コーナー! 突撃! 僕らのこじか荘

私たちが、自信を持ってお届けしています。(隠し味はたっぷりの愛情です!)



管理栄養士 森岡さん 調理員 森くん 調理員 岡田くん 調理員 古胡さん 調理員 大川さん 調理員 坂口くん

「おいしい食事」って?ただ、味が良いだけではダメですね。色や形で魅せ、硬さなど自分にあった食事を食べるからこそ「おいしい!」。こじか荘では五十名のご利用者がおられ、身体状況も様々です。そして、食事形態も様々です。写真にもあるようにご利用ひとり一人に適した食事を提供しています。低栄養状態にならないようにも注意しています。「おいしい」と感じてもらえる食事を作るために、忙しくても決して手を抜かない厨房の職員には頭が下がります!



【ブルブル食】
噛む事、飲み込む事が難しい方に提供しています。水分にはとろみも付いています。



【やわらか食】
飲み込む事は十分出来るが、噛む力が弱っておられる方へ提供しています。

この他にも、きざみ食やペースト食、普通食など毎日5種類の形態を提供しています!



いつもおこづかいをいただきますよ〜!

じゃじゃ〜ん☆ 厨房職員に聞きました!

①「調理で、一番難しいと感じる事は?」

一番は、ブル食の調理! 食材によって固まり方が違うので、毎日の調理で同じ硬さや軟らかさになるように注意をしています!

毎日、硬さや軟らかさが違うと、ご利用者へ迷惑をかけてしまうんです。やっぱり、美味しいと感じてほしいですね〜!

②「ブル食の調理で注意している事は?」

お肉や魚など、調理しにくい物は、ゼリーパウダーや水分量など、みんなで統一出来るように、いつも情報の共有をしています!

重要ポイント!

今年度、栄養課の取り組みとして「嚥下調整食の統一」があります。嚥下調整食とは食事形態の硬さや柔らかさなどを具体的にあらわした指標。まあ、もっとご利用者にあつた食事を提供しよう!みたいな感じです。こじか荘でも、嚥下調整食を取り入れて、今の食事形態から、よりおいしく、よりご利用者に合った食事を提供出来るように栄養課では取り組んでいます。この取り組みはまだ始まったばかりですが、今年度のこじか荘の研究テーマとして、12月に行われる三次ブロックの研究発表会で取り組みの成果を発表します。

第9弾

こじか荘の職員自慢!

みんなの頼れる姉貴!
「仕事が生きがい」



介護士 岡下 英子

何か趣味と言われましたが、これといってなく、私の大部分を占めている仕事について書きます。
私は、「利用者お一人おひとりの夢を叶えるため あなたの夢を叶えます企画」を5年前に立ち上げました。大きな目玉として二次のきんさいスタジアムが完成した年の野球観戦、そこから広げたマツダスタジアムの野球観戦があります。
間近でみた野球の迫力にご利用者が喜ばれ、このことは、私がこの活動を進めていく上で大きな自信となりました。ご利用者の「行きたい」「観たい」という望みに耳を傾けていく事を大切にしようと思えました。
それからは個展を開催したり、墓参りへの支援、野菜作り、いろんなことに挑戦してきました。昨年、この5年間をまとめた報告を二次で発表させていただき、それが、広島県大会、そして9月、中国地区大会にいくことになりました。大会では他の施設の色々な取り組みを聞く事ができます。学習療法、科学的介護、認知症ケアなど、とても参考になります。「こじか荘でできたらいいなと思うことでもあると思います。全てを取り入れることは困難です。だから私はいつも **できることをしよう。**」と思います。何が出来る、何が出来ないか、そして何が大切かを今も考えています。
中国大会の発表で、キラリと光る何かを見つけたと思います。

梅酒作り!



三次へ野球観戦!

寄付

備北地域メーデー実行委員会様(タオル)

26日 八次女性会様 演芸
21日 むすび会様 ツーツ交換
4日 鯨谷 美紀枝様 散髪

6月 29日 庄原奇術クラブ様 手品
19日 鯨谷 美紀枝様 散髪

5月 29日 天理教広島教区北部支部様 清掃作業
7日 鯨谷 美紀枝様 散髪
4月

ありがとうございます



ボランティア係り 介護士 森本 幸雄

ボランティア

俺の部屋

(好評?につき私のコラム連載します^^')

日本には世界遺産がどのくらいあるかご存じだろうか? 群馬県の富岡製糸場 姫路城など全部で十八か所もある。日本は世界で十三番目に世界遺産が多い国。では、日本の中で見ると、奈良県に次いで、広島県が二か所で第二位。厳島神社と原爆ドームである。朱色が美しい厳島神社。そして、原爆投下から今年で六十九年目を迎える原爆ドーム。私が小学生のころ、八月六日は夏休みでも登校し平和学習があった。中沢啓治原作 はだしのゲンの上映。作者の実体験を基に描かれた描写力とB21戦闘機の爆音に恐れ、先生の膝の上で震えていたのを思い出す。

単行本にしてもまた然り。教育という名において単行本の内容が過激、残虐などの観点から小学校の図書室から姿を消しているという話題があった。あくまでも私の個人的な意見だが、昨今、被爆経験者の高齢化が進む中、被爆体験を語り継いでいくには? という記事を見て、あの悲惨で悲しい出来事が体験ではなく、紙に書かれ風化した歴史になつてしまえ。六十九回目の原爆の日を迎える今、我々、若い世代が歴史を認識し、自分たちの子どもにも二度とあつてはいけないこの出来事を語り継いでいかなければと感じている。
八月六日、八時十五分、そつと手を合わせ黙とうを捧げたいと思う。
丸田 竜士

新人職員の紹介



調理員 坂口 聡

はじめまして。調理は未経験ですが、早く仕事を覚えて、楽しく仕事をしたいです。よろしくお願ひします。

編集後記



編集委員 丸田 竜士

今回もこじか荘の様子を沢山掲載しました。楽しく読んでいただければと思います。